



眩暈の弁証論治

黄懷龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

一、概 論

(一) 定 義：

眩とは目が眩むこと、暈とは頭がクラクラすることを示す。両者は同時に現れることが多いため、「眩暈」と総称する。

『素問・至真要大論』には「諸風掉眩、皆屬於肝」、『靈樞・口問』には「上氣不足」、『靈樞・海論』には「髓海不足」が原因と書かれる。

二、病因病機

（一）病 因

1) 飲食の不摂生・肥満体質

体内で痰湿が発生して、痰湿が中焦を阻む
痰湿が上蒙して、清陽を 阻遏する。

2) 情志の失調

肝気鬱結、気鬱化火して、津液を焼灼して痰
になる、肝陽が上亢して、清空を上擾する。

3) 虚弱体質・房劳過度

虚弱体質 節度のない性生活、腎が虚損して、陰精が不足、髓海が虚弱より、脳を充養できなくなる。

4) 病後体虚・思慮過度

病後の体力低下、過度な思慮、心脾が損傷され、気血生化不足し、気血がともに不足していて、脳を充養できなくなる。

(二) 病 機

1) 基本病機

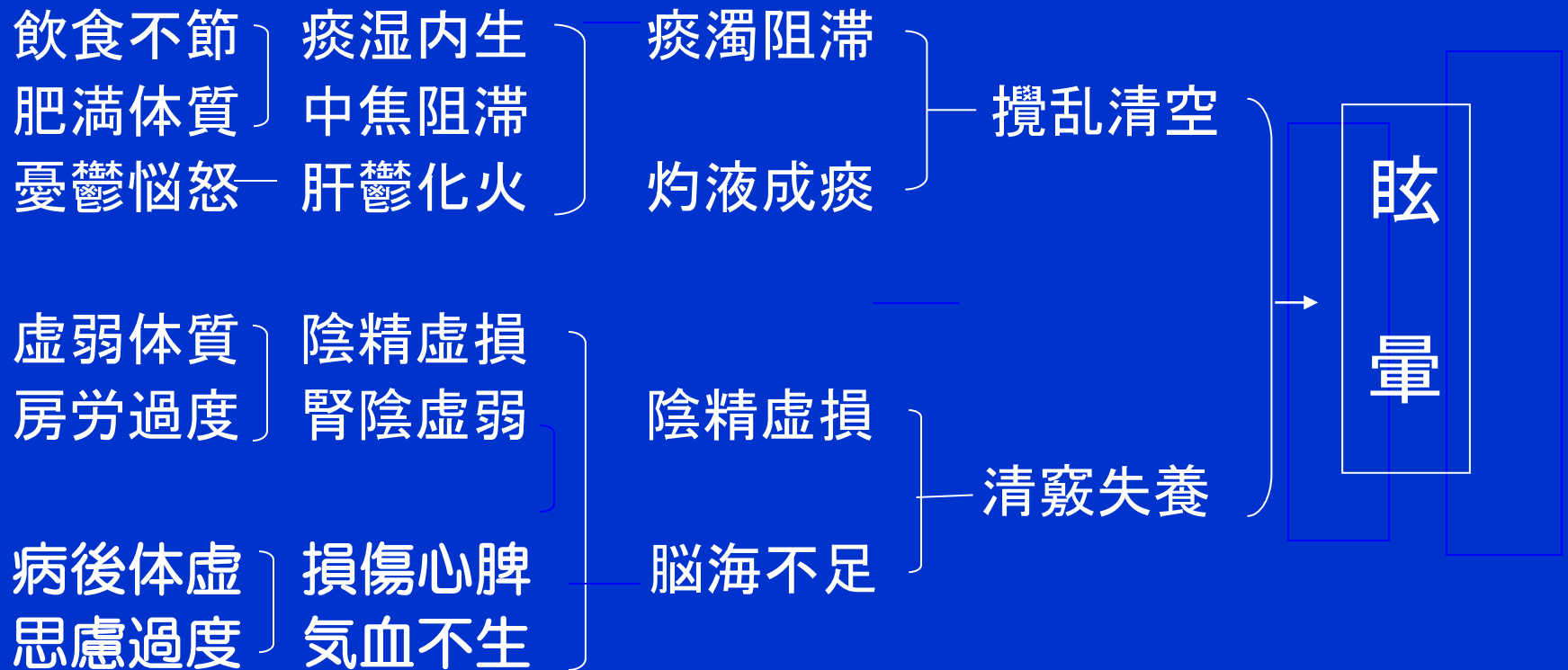
虚 { 髓海不足 } 清竅を養えない
 { 気血虧虚 }

実：風・火・痰・瘀→清空を攪乱

2) 病位：

主に肝・腎・心・脾である

眩暈の病因病機



三、弁証論治

（一）類証鑑別

眩暈と頭痛の弁別

	眩 暈	頭 痛
病 因	内傷	外感或は内傷
虚 実	虚証が多い	実証が多い
症 状	主に眩暈	主に頭痛

(二) 弁証のポイント

1) 眩暈の虚実弁証

	実 証	虚 証
誘 因	情志の失調	過労・節度のない性生活・出血
発 症	急激	緩 慢
経 過	短い	長い
主 証	眩暈が激しい、回轉性	眩暈が軽い、非回轉性
兼 症	風・火・痰・瘀の所見	気血不足・肝腎陰虚の所見
体 質	強壯	虚弱

2) 各型眩暈の弁証

証 型	症 状
肝陽上亢	眩暈・耳鳴・頭の脹痛
気血虚損	眩暈・疲労で誘発・眩み
腎精不足	眩暈が繰り返す・過労や過剰な性生活により進行
痰濁中阻	眩暈・頭が重くてボーッとする
瘀血阻竅	眩暈・面唇紫暗・舌質瘀斑

(三) 弁証治療

(一) 肝陽上亢型

- ・ 症 状：眩暈、頭の脹痛、耳鳴り、煩燥、怒りっぽい、顔面紅潮・口苦
- ・ 舌淡紅、苔薄黃、脈弦有力
- ・ 治 療：平肝潛陽、清熱熄風
- ・ 方 藥：天麻釣藤飲加減

(天麻，釣藤鉤，石決明，牛膝，桑寄生，杜仲，山梔子，黃芩，益母草，茯神，夜交藤)

(二) 気血虧虚型

- ・ 症 状：過労によって眩暈を誘発、あるいは悪化、
- ・ 目がくらむ・精神疲労・無気力・心悸・顔面
- ・ 眊白、舌淡紅、苔薄白、脈細弱

・ 治 療：補益気血 調養心脾

方 薬：帰脾湯

(人參, 黄耆, 白朮, 甘草, 生姜, 大棗, 当歸, 遠志, 茯神, 酸棗仁, 竜眼肉、木香)

(三) 腎精不足型

- ・ 症 状：眩暈、過勞や過度な性生活によって進行、
- ・ 腰膝がだるく、力が入らない、精神がぐっ
- ・ たりとする、男性は遺精 女性は帯下が多
- ・ い、舌紅或は淡紅、苔少、脈細無力。
- ・ 治 療：滋補腎陰(陰虚)
- ・ 補腎壯陽(陽虚)
- ・ 方 薬：左帰丸(補陰)
- ・ 右帰丸(補陽)

(左帰丸：熟地黄，山薬，山茱萸，兔絲子，枸杞子，牛膝，鹿角膠，亀板膠)

(右帰丸：熟地黄，山薬，山茱萸，枸杞子，杜仲、兔絲子，附子，肉桂，当帰，鹿角膠)

（四）痰濁中阻型

- ・ 症 状：眩暈・頭が重くて、ボーッとする、胸腕部の満悶感、食欲不振・吐き気、痰涎を嘔吐する、舌苔厚膩、脈細弱
- ・ 治 療：化痰祛湿、健脾和胃
- ・ 方 薬：半夏白朮天麻湯
(半夏, 白朮, 天麻, 陳皮, 茯苓, 甘草, 生姜, 大棗)

四、エキス剤の用い方

肝陽亢進：釣藤散、柴胡加竜骨牡蛎湯
抑肝散、加味逍遙散

気血虧虚：加味帰脾湯、七物降下湯、
補中益気湯

腎精不足：六味丸、八味地黄丸

痰濁中阻：半夏白朮天麻湯、苓桂朮甘湯
五苓散



ご清聴ありがとうございました